２１．愛染院根本寺・白鳥の里

（１）愛染院根本寺（通称：水原の観音様）

山号：東雲山、院号：愛染院、宗派：真言宗豊山派、本尊：如意輪観世音菩薩、愛染明王。創建は天喜５年（１０５７年）源義家が前九年合戦に臨む際、この地で暴風に遭い不思議な霊夢を見て、後冷泉天皇から賜った如意輪観世音菩薩像を安置して７日7晩の水行をし武運長久を祈願したところ、満願の日に穏やかに晴れ鹿島に渡れました。

義家は霊地と悟り守護仏に更に深く帰依し、草庵を建立し円通閣主を招いて開山したのが始まりと伝えられています。江戸時代に入ると麻生藩新庄氏の祈願所になり庇護されます。元禄７年（１６９４年）には宥範和尚により堂宇が再建されました。

現在の鐘楼門は享保年間（１７１６～１７３５年）に建てられた三軒一戸、入母屋、銅板葺、２層目に高欄を廻し外部に表しになっている構造体を、朱色に塗っている建物で江戸時代中期の楼門建築の遺構として貴重なことから、市指定有形文化財に指定されています。観音堂は享保４年（１７１９年）に建てられ、三間四面、寄棟、銅板葺、正面に一間向拝が付き建物全体が朱色に塗られ、細部の組物や精巧な彫刻が随所に施され、見ごたえのある建物で、江戸時代中期の寺院御堂建築の遺構として市指定有形文化財に指定されています。弘法大師空海が弘仁元年（８１０年）に彫り込んだとされる、如意輪観世音菩薩像（室町時代制作、檜材、寄木造、像高５９．４ｃｍ　胎内仏：藤原時代制作、一木造り、像高５．９ｃｍ）と鍍金八角釣灯篭（元禄１４年（１７０１年）、福田村伊能三右エ門奉納、高さ４５ｃｍ、周囲７０ｃｍ、重さ３．５ｋｇ）は共に茨城県指定重要文化財に指定されています。

本堂

境内

鐘楼門

観音堂

（2）白鳥の里

北浦「白鳥の里」は白鳥や鴨やユリカモメなどたくさんの 水鳥や渡り鳥が飛来し、一年中楽しめる無料の観光スポットとして知られています。

野生の鳥たちを間近で観察できる場所ですので、小さな子供から大人までが鳥たちの雄大な姿に魅了されます。

また、水鳥を至近距離で撮影でき、インスタグラムなどのＳＮＳ映え抜群です。

初めて白鳥が飛来したのは昭和５６年度に６羽で、逐年増加し平成２５年度に１３０羽と初めて１００羽を越し、令和２年度４３０羽、令和５年度６００羽と数を増やしています。白鳥は日の出とともに目覚め、付近の田園、水田へ餌を求めて飛び立ちます。

その後夕方頃まで採食をし、終わると白鳥の里へ戻ってきます。そのため朝方と夕方が白鳥に会いやすい時間帯となっています。夕方２０～３０羽の編隊を組んで鳴きながら北浦へ帰っていく白鳥達をよく見かけますが冬の風物詩の一つでもあります。

ご家族連れでの野鳥観察やスケッチ、自然とのふれあいの場としても人気です。

※北浦に飛来する白鳥の種類…コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ

１１月下旬から３月上旬まで見られます。